

長野県大町市におけるスキー場駐車場に見る湿地の植物相について

千葉 悟志*・藤田 淳一**・吉沢 敏江***・有川 美保子****・丸山 優子****

Flora of wet ground on parking area of ski resort in Omachi City,
Nagano Prefecture

Satoshi Chiba, Junichi Fujita, Toshie Yoshizawa, Mihoko Arikawa and Yuko Maruyama

要旨

長野県大町市平築場地区（標高約 840 m）にある休業中のスキー場駐車場において、小面積の湿地があることを筆者の一人（吉沢）が確認し、2020 年に植物相を明らかにすることを目的に調査を行った。当該湿地は南西方向に約 120 m、直角方向に 25 ～ 60m の幅で帯状に広がり、平面図上で計測した面積は約 3,300 m²であった。調査の結果、確認種は合計 8 科 27 種で、県内稀産のクロテンツキ、ヒメタイヌビエ等のカヤツリグサ科、イネ科草本の生育も明らかになった。

キーワード：植物相、イトイヌノヒゲ、カリマタガヤ、カヤツリグサ科、イネ科、スキー場駐車場

1 はじめに

長野県大町市平築場地区にある休業中のヤナバススキー場駐車場（北緯 36° 36′ 14.3″ 東経 137° 51′ 13.6″）において、小面積の湿地があることを筆者の一人（吉沢）が確認した。ヤナバススキー場は近年、スキー客の減少や安定的な積雪が得られないなどの影響により、2015-2016 年のシーズンの営業（45 日間）を除き、2013-2014 年のシーズンからはほぼ休業の状態が続き、ゲレンデを含め湿地のある駐車場においても管理が行き届かない状況が続いている。今後、土地の利用形態の変更等によっては湿地の消失が懸念されることから、筆者らは現存する間に全植物種のリスト化を試みるとともに証拠としてさく葉標本作製したことから報告する。

2 調査地概要と調査方法

ヤナバススキー場（旧ヤナバ国際スキー場）は、1972 年に権現山（標高 1233m）の西側斜面につくられたスキー場で、7 本のコースを有する。最低標高約 830m、最高標高約 1130m と低標高地ながら、豊富な雪に恵まれる地域にあり、現 HAKUBA VARREY 鹿島槍スキー場（営業を継続）、Blue Resort 白馬さのさか（一時休業も今季営業）、青木

湖スキー場、やなばパラレルスキー場（いずれも廃業）とともにスキーエリアの一角をなし、1985 年には、ヤナバススキー場前駅が新設されるほどの賑わいを見せた。しかし、2013-2014 年のシーズンからはほぼ休業の状態が現在まで続いていて、ヤナバススキー場前駅も乗降客の減少から 2019 年 3 月に廃止に至った。当該湿地は、そのヤナバススキー場駐車場の一角にあり、裾野につくられた切土斜面と駐車場の接する標高約 840m 前後に位置する。

調査は、2020 年 8 月 18 日、23 日、9 月 6 日、11 日に実施した。植物相リストの作成にあたっては、和名、学名は、植物和名 - 学名インデックス（米倉・梶田 2003-）（以下 Y リストと呼ぶ）に準拠した。作製した標本は市立大町山岳博物館（OAM）のシリアルナンバーが付与され（TCCN は藤田の個人の標本番号）、すでに同博物館標本庫に登録・配架されている。

なお、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、調査は単独あるいは現地に個々で集合し、調査中はマスクの着用、2 m 以上の距離を保つなどの予防対策を行った。現地で得られたさく葉標本は各自で作製し、同定後、博物館に集められ、最終的なリスト作成にあたっては、それらをもとに藤田が中心に再同定を行い、複数人が介するような同定会などは実施しなかった。

3 結果と考察

調査の結果、当該湿地は南西方向に約 120 m、直角方向に約 25 ～ 60m に成立し、平面図上で計測した面積は約 3,300m²で（図 1）、そのうち、西

* 市立大町山岳博物館 〒 398-0002 長野県大町市大町 8056-1

** 藤田 淳一 〒 390-0313 長野県松本市岡田下岡田 243-2 サープラス I アルプ 203 号

*** 吉沢 敏江 〒 399-9301 長野県北安曇郡白馬村北城 2937-244

**** 大町山岳博物館友の会 〒 398-0002 長野県大町市大町 8056-1

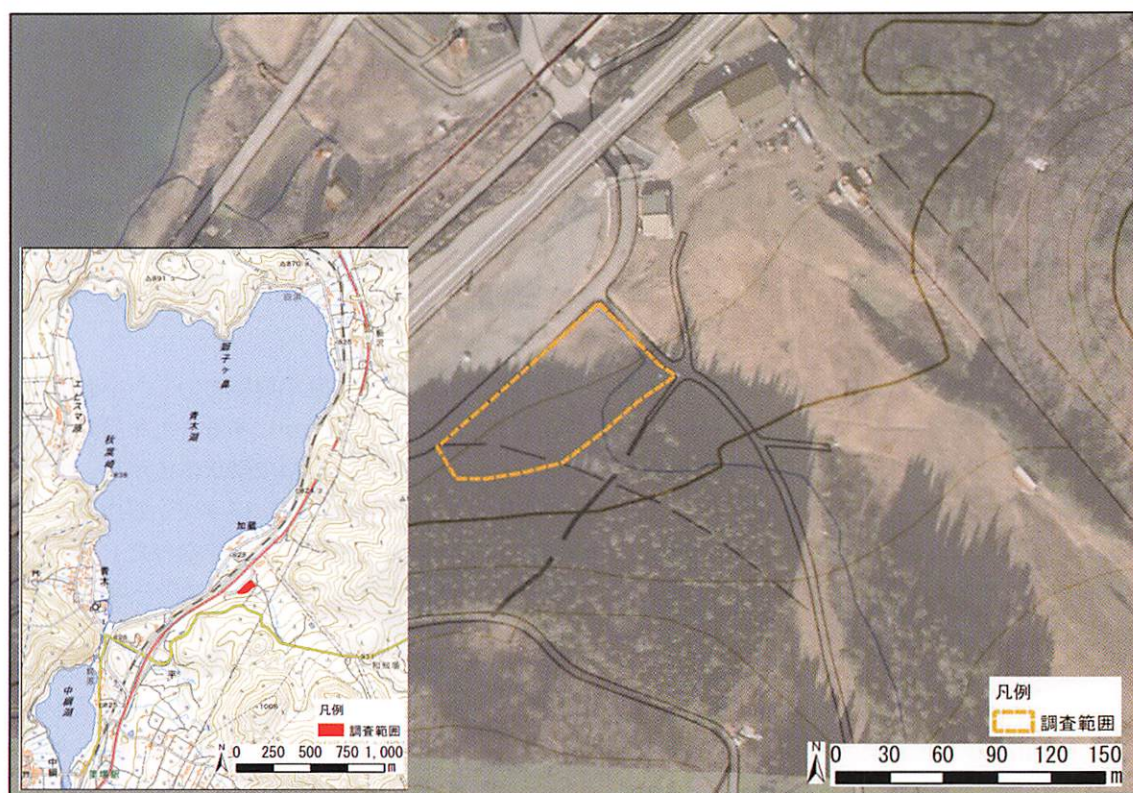


図1 調査地位置図（背景図は国土地理院提供の平面図と航空写真）



図2 湿地の積雪状況 2021年1月11日 旧国道148号への接道（手前）

側のおおよそ半分が乾燥化し、駐車場として利用されていたと推測され、そのような場所ではキンエノコロ *Setaria pumila* (Poir.) Roem. et Schult., ヤハズソウ *Kummerowia striata* (Thunb.) Schindl., イヌコウジュ *Mosla scabra* (Thunb.) C.Y.Wu et H.W.Li などの生育が認められた。

湿地内の水はゲレンデ南側から湿地を經由して流下する小水路が主な供給源で、ゲレンデの残雪や駐車場内を經由する生活道路の確保から、冬から春にかけて湿地や周辺に除雪され堆積する残雪も例年4月下旬～5月上旬まで見られることから、一時的な供給源となっていると考えられた（図2）。また、湿地の北北東－西南西方向の裾野には、スギ人工林が延びていることから、太陽からの直射光が比較的



図3 湿地の積雪状況 2021年1月11日 湿地（手前）を日陰するスギ人工林

長く遮られる環境下にあると推測された（図1,3）。植物相調査の結果、証拠標本として60点を採集し、確認種は合計8科27種であった。表1に確認種と標本番号リストを示す。

湿地は東側のおおよそ半分が過湿な土壌となっていて、イトイヌノヒゲ *Eriocaulon decemflorum* Maxim. が広範囲に密生し、カリマタガヤ *Dimeria ornithopoda* Trin. var. *tenera* (Trin.) Hack. も比較的、広範囲に生育していたほか、イヌシカクイ *Eleocharis wichurae* Boeck. f. *teres* (H.Hara) Ohwi, クロテンツキ *Fimbristylis diphylloides* Makino, ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi といった県内稀産のカヤツリグサ科、イネ科草本の生育も確認した。また、

Spolobolus sp. は、ヒゲシバ *Sporobolus japonicus* (Steud.) Maxim. ex Rendle と思われるが苞穎、護穎の形が鋭利で、色素がほとんど沈着しないため、検討が必要である。

このように、当該湿地に生育する植物種数は少ないものの湿生植物の生育地また生育種は重要で、今後は春季の湿生植物の生育状況を記録することで、より正確な植物相や群落組成の把握につとめるとともに、7年の時を経てもなお遷移の進行が顕著に見られない要因についてもあわせて調査していきたい。

4 引用文献

星野卓二・正木智美・西本眞理子 (2011) 日本カ

ヤツリグサ科植物図譜

長田武正 (2002) 増補 日本イネ科植物図譜 (オンデマンド版), 平凡社

大塚孝一・星山耕一・藤田淳一・尾関雅章・石田祐子 (2017) 長野県植物目録, 長野県植物目録編纂委員会

杉本順一 (1965) 日本草本植物総検索誌<双子葉編>, 六月社

杉本順一 (1973) 日本草本植物総検索誌<単子葉編>, 井上書店

谷城勝弘 (2007) カヤツリグサ科入門図鑑, 全国農村教育協会

米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名－学名インデックス」(YList), <http://ylist.info> (2021年1月20日閲覧)

表1 確認種と標本番号リスト

No.	科名	種名	学名	標本番号
1	ホシクサ	イトイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon decemflorum</i> Maxim.	OAM10242 (TCCN20-0752), OAM10320, OAM10330, OAM10352, OAM10365, OAM10376
2	イグサ	アオコウガイゼキショウ	<i>Juncus papillosus</i> Franch. et Sav.	OAM10347, OAM10360, OAM10372
3		コウガイゼキショウ	<i>Juncus prismatocarpus</i> R.Br. subsp. <i>leschenaultii</i> (J.Sav. ex Labillard.) Hirschner	OAM10313
4	カヤツリグサ	ヒメグ	<i>Cyperus brevifolius</i> (Roth & Rostk.) Boeck. var. <i>leptolepis</i> (Franch. et Sav.) T.Koyama	OAM10321, OAM10358
5		アゼガヤツリ	<i>Cyperus flavidus</i> Retz.	OAM10324, OAM10348, OAM10371
6		カワラスガナ	<i>Cyperus sanguinolentus</i> Vahl	OAM10353
7		ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> D.Don var. <i>japonica</i> (Wiq.) T.Koyama	OAM10323, OAM10354
8		シカクイ	<i>Eleocharis wichuriae</i> Boeck.	OAM10241 (TCCN20-0751), OAM10325, OAM10363, OAM10364, OAM10373
9		ミツカドシカクイ	<i>Eleocharis wichuriae</i> Boeck. f. <i>petusata</i> (Maxim.) H.Hara	OAM10239 (TCCN20-0749)
10		イヌシカクイ	<i>Eleocharis wichuriae</i> Boeck. f. <i>teres</i> (H.Hara) Ohwi	OAM10240 (TCCN20-0750)
11		ヒメヒラテンツキ	<i>Fimbristylis autumnalis</i> (L.) Roem. et Schult.	OAM10322, OAM10355, OAM10367, OAM10370, OAM10375
12		クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyllodes</i> Makino	OAM10326, OAM10329, OAM10369, OAM10377
13		ヤマイ	<i>Fimbristylis subbispicata</i> Nees et Meyen	OAM10243 (TCCN20-0753), OAM10332, OAM10361, OAM10362
14		アブラガヤ	<i>Scirpus wichuriae</i> Boeck. f. <i>concolor</i> (Maxim.) Ohwi	OAM10356
15	イネ	コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i> (Thunb.) Makino	OAM10350
16		カリマタガヤ	<i>Dimeria ornithopoda</i> Trin. var. <i>tenera</i> (Trin.) Hack.	OAM10328, OAM10351, OAM10374, OAM10378 (TCCN20-0748)
17		ヒメタイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) P.Eaouv. var. <i>formosensis</i> Ohwi	OAM10357
18		オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i> Michx.	OAM10318, OAM10368
19		スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i> Kunth ex Steud.	OAM10327
20		キンエノコロ	<i>Setaria pumila</i> (Poir.) Roem. et Schult.	OAM10319
21		<i>Spolobolus</i> sp.	<i>Spolobolus</i> sp.	OAM10345, OAM10366
22	マメ	ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i> (Thunb.) Schindl.	OAM10317
23	アカバナ	アカバナ	<i>Epilobium pyrrhophyllum</i> Franch. et Sav. var. <i>pyrrhophyllum</i>	OAM10315, OAM10316
24	タデ	ヤノネグサ	<i>Persicaria muricata</i> (Meisn.) Nemoto	OAM10359
25	シソ	ヤマハッカ	<i>Isodon inflexus</i> (Thunb.) Kudô	OAM10314
26		ヒメシロネ	<i>Lycopus mackianus</i> (Maxim. ex Herder) Makino	OAM10331, OAM10346
27		イヌコウジュ	<i>Mosla scabra</i> (Thunb.) C.Y. Wu et H.W. Li	OAM10238 (TCCN20-0747), OAM10349
合計8科27種				合計60点